

令和7年10月28日

中標津町議会議長 後藤一男様

中標津町議会議員 佐久間ふみ子

## 研修報告書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 観察名 文教厚生常任委員会道内視察
- 2 観察先 北見市立西小学校（北見市教育委員会）
- 3 観察日 令和7年10月8日（水）
- 4 観察事項 ICT教育の取り組み及びGIGAスクールについて
- 5 成果

今回、視察訪問させていただいた北見市立西小学校は、創立128年の北見市内で最も歴史のある学校です。児童数294人、学級数21学級、教職員数49人の学校ということで当町の町立各小学校とさほど変わらない学校規模であると思います。

北見市におけるGIGAスクール構想推進事業は、令和2年度コロナ禍により前倒しで「環境整備」「端末整備」「端末・アプリ選定（ロイロノート、AIドリル）」「先進校視察」「端末に関する研修、スタッフ等の派遣」「セキュリティーポリシー研修」など、いち早く業務委託をし、学校現場のDXを取り組みました。

1人1台端末のネットワーク整備も含めて2020年度には整備率100%を実現し、2021年度4月からGIGA環境下での学習（授業支援アプリ・AIドリルアプリ導入）をスタート、2022年度は端末活用推進チームを発足し、市内小学校を巡回してICTスキルの活用を積極的に行ってています。2023年度からはICT巡回訪問員を教育委員会内に配置し、授業づくりや授業改善について巡回・助言・研修を行っています。

また、ICT活用の授業スキル向上のため、市教委が主催する研修会を年間12回実施し全国学力・学習状況調査においても全国平均を上回る成果を出しています。

北見市のGIGAスクール構想第一期の総括を通して、端末活用のステップアップについて計画的に推進を図り、的確に進んでいることに深



授業の様子も見学させていただきました

く感心致しました。

その後、2年生、4年生、6年生のそれぞれの教室へ移動し授業参観させていただきました。実際にパソコンを使って2年生は九九の練習、4年生は国語の勉強に、6年生は社会の学習をグループでまとめる様子を見て、それぞれの子どもたちが自分のパソコンを自在に使い、活用している姿はとても新鮮であり、これからの中学校教育の学びの進化を実感しました。

当町の町立各小中学校・義務教育学校・農業高校の視察訪問を実施し、ICT教育のタブレット活用状況等を確認していきたいと思います。

## 2 観察先 大雪かみかわヌクモ（上川町）

3 観察日 令和7年10月9日(木)

4 観察事項 未来型公民館について

## 5 成果

上川町は、北海道のほぼ中央にある大雪山連峰のふもとに位置していて、人口は3,054人(2025年9月末現在)です。

地域の廃校になった学校(体育館)をリフォームして、2024年4月リニューアルオープンした未来型公民館の施設を視察してきました。

子どもが走り回れるフリースペースやコーヒー、スイーツを楽しめるカフェを併設し、子どもも大人も楽しめる施設となっています。

特に注目すべきは、子どもたちが描いた絵が動きだすプレイルームがあって、そこは有料で90分1000円です。チームラボによる子ども向けデジタルプログラム「あそぶ！天才プログラミング」を導入していて、紙に自由にピープル(男の子や女の子)の絵を書き、専用タブレットでプログラムを作る(プログラミングします)と、描いた絵が壁一面に広がる草原の中に現れてプログラミングした通りに動きだします。他の人たちが作ったピープルとコミュニケーションをとったり、遊びながらプログラミングの考え方を学べることができます。

館長さんが、実際にプログラミングの過程を実演して見せてくれました。スキャンした絵が踊ったり、ジャンプしたり動くのが不思議な感じですが、とても興味深く子どもたちに大人気なのがよくわかりました。

こここのコーナーは、チームラボが関わって企画されていますが、施設のホールには自由に組み合わせて遊ぶことができるいろいろな形の大きめのクッションブロックとホール



プログラミングの説明を受けました

の壁一面が大雪山をイメージしたバンク(傾斜)になっており、子どもを見守りながらゆっくりとコーヒーを楽しむことができるカフェが併設されていることも大きな魅力のひとつであると感じました。

当町にも、廃校のままの学校がありますが、その一部をリフォームして子育て支援の拠点または、プログラミングを学べる教室等に活用できないか提案をしていきたいと思います。

- 2 観察先 富良野市役所
- 3 観察日 令和7年10月9日(木)
- 4 観察事項 ごみ資源化の取り組み
- 5 成果

富良野市のごみ処理は「分ければ資源・混ぜればごみ」を合い言葉として、長年にわたり分別リサイクルに取り組んでこられました。平成13年10月からは、環境にやさしい循環型社会を目指して、「燃やさない・埋めない」を基本に14種分別を開始され、ごみの指定袋も、「生ごみ」「プラスチック類」「ペットボトル」「空き缶」「衛生用品ペット糞等」「固体燃料ごみ」などは6種の専用袋に分別して排出します。それ以外の「空きびん・陶磁器・ガラス」「乾電池類」「新聞・雑誌類」「枝草類」「大型ごみ・電気製品」「灰」「動物死体」「処理困難物」など、それぞれ分別して排出します。



高橋課長から丁寧な説明を受けました

ここまで細かい分別は、市民の皆さまの協力と市民生活部環境課職員の皆さまの努力なくしては、大変なことだらうと感じます。

続いて、富良野市リサイクルセンターに移動し、固体燃料ごみ等の可燃ごみを固体燃料化する工程を視察。固体燃料は中級石炭並の発熱量を持ち、様々な施設の熱源として利用されています。

また、「衣服類・ぬいぐるみ・バック類他」は、きれいにして10円～100円程度で販売していました。

ごみを減らすための3Rが大切ということで、Reduceリデュース(ごみの量を減らそう)、Recycleリサイクル(資源として活かそう)、Reuseリユース(繰り返し使おう)との徹底したごみ処理の取組は、当町にとっても「燃やさない・埋めない」の basic 理念をお手本すべき施策であると感じました。



リサイクルセンター内で説明を受けました

- 2 観察先 置戸町役場**
- 3 観察日 令和7年10月10日（金）**
- 4 観察事項 子ども・子育て支援について**
- 5 成果**

置戸町は、オホーツク地方南西端に位置し、面積の8割を森林が占める林業と農業の町で「オケクラフト」は、北海道置戸町の地域クラフトブランドとして定着しています。人口も2,485人(令和7年9月30日現在)と減少傾向ですが、置戸町子ども・子育て支援事業の施策について研修をさせていただきました。

おもな子育て施策として、町独自で0歳から2歳まで保育料無償化、3歳未満の乳幼児の保護者に紙おむつ用ごみ袋の助成、すくすくギフト(木製食器贈呈)事業、ファーストブックプレゼント事業、子ども医療費は高校生まで自己負担を助成、また、令和8年度新規開所に向けて「児童館・放課後児童クラブ施設」を建設中であるということです。

人口減少が続く中でも、町の0歳～14歳の年少人口は近年ほぼ横ばいで推移していることで、安心して子どもを産み育てることができるまちを目指し、生まれてから成人まで子育て支援を充実させて、町全体で子どもたちの成長を見守り、各家庭をサポートしている置戸町の子育て事業の取組は大変充実されていると感じました

当町において、これから子育て施策をしっかりと前に進め、充実した子育て支援を実施していくけるよう努力していきたいと思います。

そして、この視察研修で勉強させていただいたことを次回の議会に反映させていきたいと考えています。

また、今回、子育て支援の視察に関して、事前に質問をお渡ししていて、当日の説明に各担当部局からそれぞれ担当の職員と議会側職員、総勢10名の出席をいただきました。

最初に、置戸町深川町長からもご挨拶をいただき、手厚く丁寧な対応に大変感激しました。



親切な説明をいただいた職員の方々